

京大病院 リスクマネージャーのみなさま、こんにちは。8月16日、3年ぶりのいつもの五山送り火。きれいに点火してよかったです。

医療安全管理室では、そのときの社会のタイムリーな話題を紹介しながら、リスクや安全に関する用語をご紹介します。

今回は、「インフォームド・コンセント」という言葉をご紹介します。

項目：

1. インフォームド・コンセント
2. 意思決定支援者・アドボケート

1. インフォームド・コンセント

今では、すっかり、日本語に定着したインフォームド・コンセント。今更、紹介するまでもない言葉なのかもしれません。インフォームド・コンセントを改めて語るとしたら、何がタイムリーな話題なのか、世界の状況を知るために、世界保健機関（WHO）のHPを調べてみました。

インフォームド・コンセントは、精神疾患の領域で課題であるということが、今日の世界での話題のようです。

7歳のときに精神疾患と診断されたアレクサンドラは、「とても簡単なことも、自分で決められない（決めさせてもらえない）。もともと低かった自尊心がさらに低くなり、精神疾患も悪化した。」と過去を振り返っています。

しかし、彼女に変化が生じます。セラピストが彼女に合ったプランを考え、彼女が自信を取り戻すように支援しました。彼女は、少しずつ変わっていき、やがて、彼女は精神に関わるだけでなく、人生における決定も自分でできるようになってきた、と振り返っています。

精神疾患を有する人が、インフォームド・コンセントの権利を行使できていない現状に懸念が示されています。「**私たちのことを私たち抜きで決めないで（Nothing About us without us）**」

これは、国際連合で採択された障がい者権利条約です。インフォームド・コンセントは、自分のことは自分で決める、ということです。

2. 意思決定支援者・アドボケート

アドボケートという言葉は、日本語に訳しにくいですが、**意思決定支援者**と訳してもよいかもしれません。英国 NHS（National Health Service）のホームページに、「あなたの代わりに声を上げてくれる人」が advocate だと書かれていました。

<https://www.nhs.uk/conditions/social-care-and-support-guide/help-from-social-services-and-charities/someone-to-speak-up-for-you-advocate/>

患者さんは、

- ・治療の内容や診療の方針を理解できていないかもしれません
- ・治療について不安を感じていることを伝えられないかもしれません
- ・治療方針について決定することが難しいかもしれません
- ・治療方針に納得していないことを伝えられないかもしれません

そのようなときに、意思決定支援者は大きな役割を果たします。

本院も、**重要な IC の場の看護師同席率を向上させる**取り組みを行ってきました。少しずつ向上してきているように思います。工夫し、同席率を向上させている診療科もあります。今後、よりよい工夫を皆様に紹介していきたいと思います。

リスクマネージャーの皆様へお願い

必要があれば

「ICへの同席」が必要な具体的な事例を見直してください。

KING7 の「IC」記録に新機能が追加されます。

今回の改訂によって、IC 記録に

・医療者側の同席者と職種

が記載できるようになりました。また、

医師以外の同席者が必要な説明内容かどうか、ラジオボタンで選択することになりました（必須項目）。

「同席が必要な IC」の同席率が測定できるようになりました。

医師以外の同席者（医療スタッフ）の必要性の有無 ?

☐ 医師以外の同席者を要するもの

☐ 同席が望ましい

☐ 同席不要

「医師以外の同席を要するもの」については、「**京都大学医学部 附属病院における医療倫理指針**」もご参照ください。

* 今回は、「インフォームド・コンセント」について、お伝えしました *